



心地いい 暮らしを つくる収納術



居心地がいいと感じるインテリアは人それぞれ異なりますが、
心理的に落ち着く部屋には法則があります。
整理収納を通して心豊かな暮らしを目指す、
ライフオーガナイザー・鈴木尚子さんのご自宅に伺い、
住まいづくりのヒントを教えてくださいました。

Photographs: Yuko Kawashima



以前はリビングで仕事をしていたという鈴木さん。ご主人が在宅勤務になったことを機に、それぞれ個室を持つことに。元は夫婦の寝室だったところに、リビングに置いていたワークデスクを移動して鈴木さんの仕事部屋にしたそうです。収納と一体になった使い勝手のいいワークデスクはオーダーなのとか。「収納選びは、収めたい物の寸法と使用頻度を考慮して」と鈴木さん。

くつろぎの時間をより上質にする、 居心地のいい空間づくり。

白と木目を基調とした明るいうらびなぐダイニング。家具や雑貨の黒がアクセントになり、洗練された印象を添えています。物が少ない訳ではないのにすっきりとしていて気持ちよく感じるのは、素材や色を統一し、視界に入ってくる情報量を少なくしているから。モノ選びや収納の工夫がビジュアルストレスを解消し、落ち着く空間を生んでいます。



PROFILE

鈴木尚子さん（ライフオーガナイザー、株式会社SMART STORAGE代表）

アパレル業界で十数年にわたりデザイン・企画・人材育成に携わり、出産を機に専業主婦となる。片づけに悩む中、思考と空間を整理する手法「ライフオーガナイズ」を学び、個人向けに整理収納の仕事を開始。著書に『もっと心地いい暮らし』（中経出版刊）など。



場所別収納術

STORAGE
IDEAS

お気に入りのものに囲まれて、日々を快適に過ごすためには、
収納の仕組みをつくった上で、インテリアを自分の好みに近づけて。
その先に心地いい暮らしが待っています。



キッチン

KITCHEN



頻繁に使うものは 手に取りやすい位置に。

よく使うキッチンツールや調味料などは棚にしまわず、手の届く場所に出しておく。アイテムが多くても、シルバーか黒で統一しているので整然として見えます。



クロゼット

CLOSET



**一目で見渡せて、持ち物を
把握できる状態が理想。**

衣類は色分けし、3カ月ごとに見直して入れ替え。ハンガーや衣類カバー、収納用品などを揃えると、見た目に美しいだけでなく、収納量もアップ。

バスルーム

BATHROOM

水廻りは清掃性を優先し、「隠す収納」を。

ゲストも使う水廻りは掃除しやすいように、物はなるべくしまっておきます。収納性とインテリア性を両立する天然素材のカゴが活躍。アメニティ類は鏡の裏へ。



パントリー

PANTRY

物の住所を定めて、家族全員で共有。

食材や日用品のストック、掃除道具などは「集中収納」で探しやすい。ボックスにざっくり仕分けて、ラベリングで置き場所を明確にします。



STORAGE COLUMN

自分が心地いいと感じるものを知る。

まずは自分の好みを把握し、漠然としたイメージを明確にしましょう。理想のビジュアルをストックしておく、心地いい空間をつくるために役立ちます。空間や収納に統一感を出すためには、視覚的な要素を意識することが大切です。

収納グッズを「とりあえず買う」前に。

ベストな収納法を考えるためには、「仮置き」してみると、どこにどのように収めたら使い勝手がいいかが見えてきます。収納用品を購入するのはそれから。条件に合うものが見つからなければ、出合いを待つことも大切です。

片づく仕組みをつくって「出したら戻す」を習慣化。

使ったら元の位置に戻すのが基本。ラクに戻せる仕組みができていれば、片づいた部屋をキープできます。手間がかかっては後回しになってしまいがち。自分や家族にとって使いやすい収納になっているか、時々見直しを。